

北海道大学低温科学研究所共同利用研究集会「氷河の流動および変動に関する研究集会」

日程： 2013 年 8 月 28 日～8 月 29 日

会場： 北海道大学 低温科学研究所 3F 講堂

プログラム

8 月 28 日(水)

- 13:00～13:15 挨拶 古川義純(北大低温研所長)
- 13:15～13:20 趣旨説明・諸連絡
- 13:20～13:50 南パタゴニア氷原ペリート・モレノ氷河における氷厚変動観測
内藤望(広島工大)
- 13:50～14:20 南パタゴニア氷原ペリートモレノ氷河における末端位置の季節変動
箕輪昌紘(北大低温研/環境)
- 14:20～14:50 南パタゴニア氷原におけるカービング氷河の末端変動と流動変化
榊原大貴(北大低温研/環境)
- 14:50～15:20 カービング氷河における短期流動変化 —パタゴニア・南極・グリーンランド—
杉山慎(北大低温研)
- 15:20～15:40 休憩
- 15:40～16:10 グリーンランド・ボードイン氷河における表面高度変化
津滝俊(極地研/北大低温研)
- 16:10～16:40 南極ラングホブデ氷河の末端位置・流動速度と表面標高の変化
福田武博(北大低温研/環境)
- 16:40～17:10 多時期ステレオペア画像を用いた南極昭和基地近傍の氷床縁変動の検出
駒澤皓, 澤柿教伸(北大環境)
- 17:10～17:40 画像を用いた遠距離高精度計測の屋外計測への応用について
木村諭史, 橋本岳(静岡大)
- 19:00～ 懇親会

8 月 29 日(木)

- 09:00～09:30 ネパール東部の小型氷河の末端変動観測結果
朝日克彦(信州大)
- 09:30～10:00 ブータン・ヒマラヤにおいて氷河周辺斜面の空間解析から分かること
永井裕人(名古屋大)
- 10:00～10:30 多時期のデジタル標高モデルから復元された 1960 年代以降のブータンヒマラヤ・ルナナ
地方の氷河の高度変化
縫村崇行(名古屋大)
- 10:30～10:45 休憩
- 10:45～11:15 北極気候変動にかかわる氷河研究の動向
榎本浩之(極地研)
- 11:15～11:45 シベリア北極域 Toll 氷河の過去 50 年間の質量収支変動
紺屋恵子(海洋研究開発機構)
- 11:45～12:15 ALOS/PALSAR による grounding line 抽出と ALOS-2 への展望
山之口勤(リモートセンシング技術センター)
- 12:15～13:30 昼食
- 13:30～14:00 ユーコンの氷河流動の季節変化: 冬季加速は普遍的か? (仮)
古屋正人(北大理)
- 14:00～14:30 Glacier Surge in West Kunlun Shan, NW Tibet Detected by Synthetic Aperture Radar (仮題)
安田貴俊(北大理)
- 14:30～14:40 休憩
- 14:40～15:40 総合討論
コメント: 成瀬廉二(NPO 法人氷河・雪氷圏環境研究舎)